

台風のメエ



Based on the story written by AIMI

Visualized by YUKI

台風の前

雨と風の音で、目が覚めました。

昨夜は風が気持ちよかったので、窓を開けて眠りました。
なので、窓ぎわにおいた机が、すっかり濡れてしまいました。

部屋の電気を消して、目をつぶってみても、なかなか眠れない夜でした。

久しぶりに、羊でも数えよう。

まぶたの中に草原を描き、柵をひとつ、立てる。

さっそく、羊が一匹現れました。

眠れないのならば、無理に眠らなくても良いじゃないか。

その羊は、理屈っぽくしゃべり始めました。

歩きながら考え事をしたり、食べながら会話をしたりする事は出来る。けれど、眠っている間は、眠る事だけしか出来ない。

それに眠っても、お腹がいっぱいになるわけでもなければ、問題が解決するわけでもない。

君の年にもなれば、いくら寝たところで成長の助けになるわけでもない。

せいぜい、疲れを取ることにしか良い事はないけれど、自然に眠れないということは、君は大して疲れているわけではないのだろう。

何の意味もない。時間の無駄だ。

なのに、どうして君は眠りたいのかい？

羊はべらべらとしゃべり続けて、柵を跳ぶ気配が全くありません。

二匹、三匹とテンポよく数えていかないと、いつまでたっても眠れないのに。

もともと、眠らせる気もなさそうだけれど。

仕方がないので、わたしは答えてあげました。

夢を見たいから。

現実はとてもとても重たくて、逃げ出したいくなる。

そして、逃げる場所は、夢しかないから。

羊は鼻を鳴らしました。

じゃあ、君は見たい夢が見られるのかい？

いつも、いい夢ばかりを見られる？

夢を操作することは、現実をうまく生きていくことよりも、難しいことだろう。

それに君は、目覚めた時には夢の内容はあやふやで、夢を見たことすら忘れてのことだってあるじゃないか。

眠りへ、夢の世界へと導いてもらうために呼んだのに、
この羊はどうあっても、わたしを眠らせないつものよう。

けれど、こちらも引き下がる訳にはいきません。

わたしには、夢の中でしか会えない人がいる。

まだ、会えた事はないけれど。

それでも、会いに行くんだ、何度でも。

わたしは、力強くはっきりと、羊に向かって言いました。

羊は言いました。

そうか、わかった。

だったら、会いにいけば良い。

でも、自分で柵を超えて行くんだ。

羊に連れて行ってもらおう、なんて思っちゃいけない。

自分の足で辿り着くほうが、嬉しいだろう？

そこで、わかりました。

羊は、この柵を乗り越えるのが怖いのです。

それで、一生懸命に理屈を並べて、わたしが眠るのを諦めてしまうのを待っていたのです。

なるほど、よく見てみるとその柵は、羊のからだの倍の高さがあり、たくさんの柱で頑丈に出来ています。

わたしは、柵に向かい合いました。

すこし高い、夢へのハードル。

数歩、後ろに下がって、助走。そして、ジャンプ。蹴り上げた足は、利き足とは逆になってしまいました。

力が入らない。

見ていた羊が、とっさに、私を柵の向こうへ押しやりました。

超えた、超えた、だけど、顔面から着地――

今日は台風のようなのです。

じめじめした空気、強い向かい風の中、学校に行かなくてはなりません。

きっと、帰る頃には、くたくた。

そんなことを考えているうちに、今日見た夢のことは、すっかり忘れてしまいました。

雨と風の音で、目が覚めました。

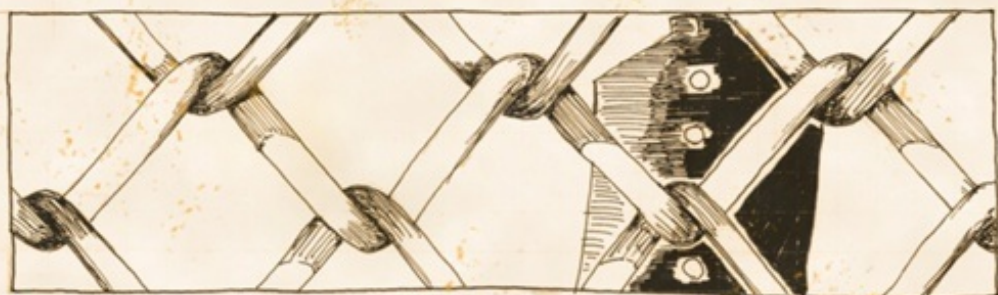
昨夜は風が気持ちよかったので、窓を開けて眠りました。





歩きながら考え事をしたり、食べながら
会話をしたりする事は出来る。
けれど、眠っている間は、眠る事だけ
しか出来ない。

それに眠っても、
お腹がいっぱいになるわけ
でもなければ、問題が解決
するわけでもない。



君の年にもなれば、いくら寝たところで
成長の助けになるわけでもない。せいぜい、

疲れを取ることにしか良い事はない
けれど、自然に眠れない
ということは、君は大して
疲れているわけではないだろう。



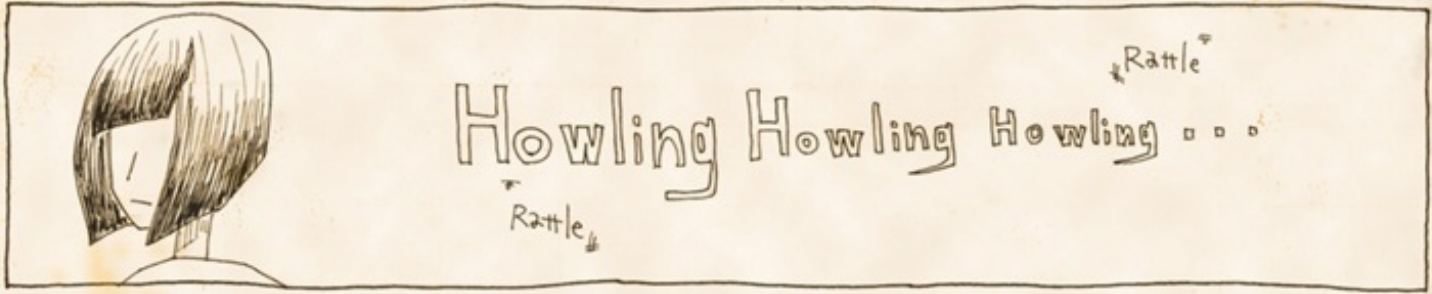
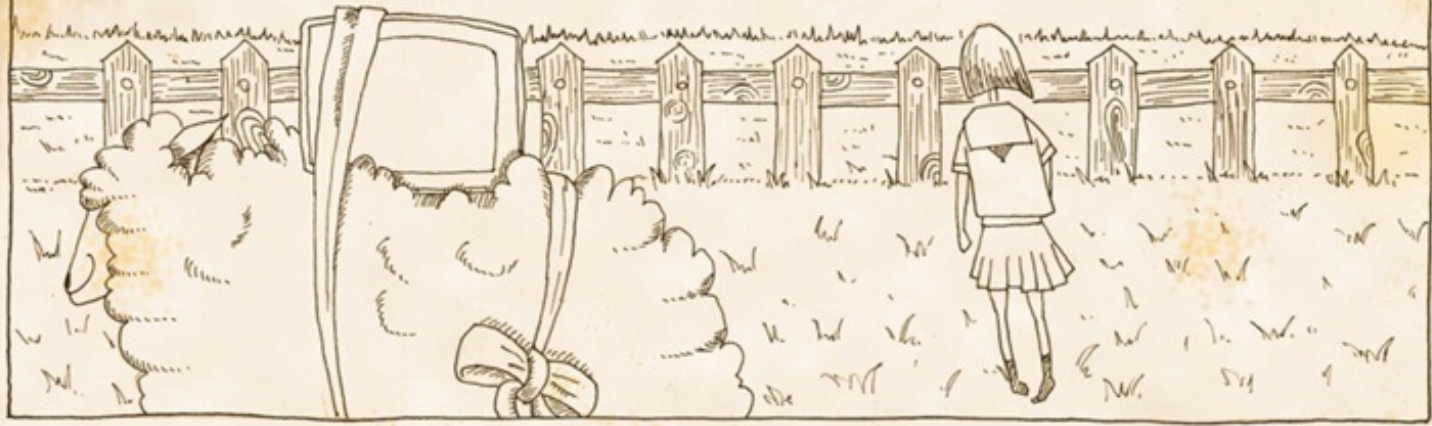
なのに、どうして君は眠りたいのかい？

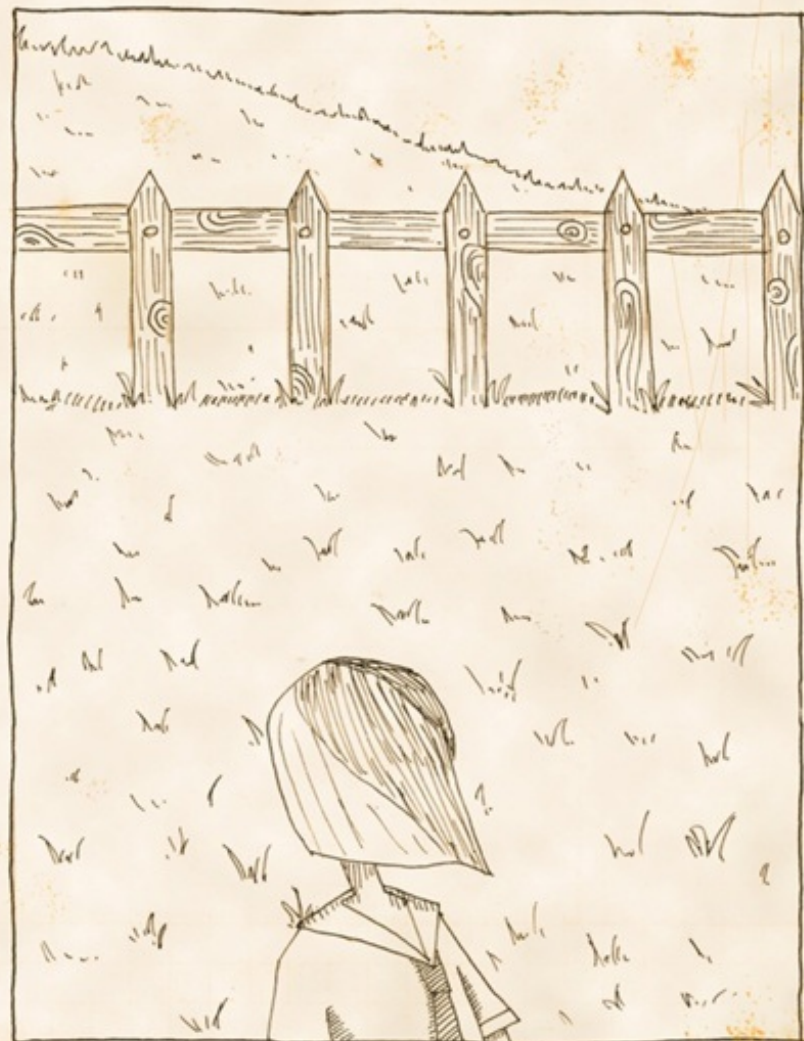
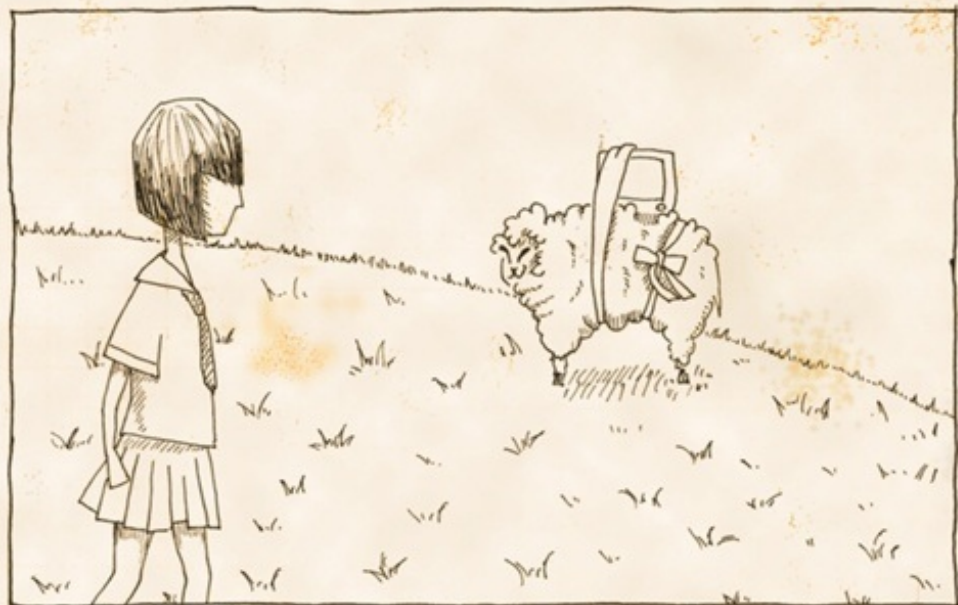


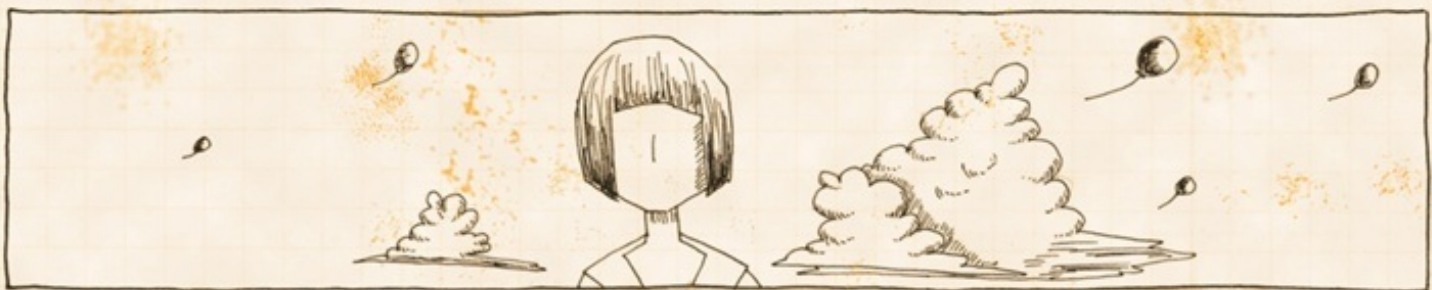
わたしには、
夢の中でしか会えない人がいる。
まだ、会えた事はないけれど。

何度でも。

それでも、
会いに行くんだ、何度でも。



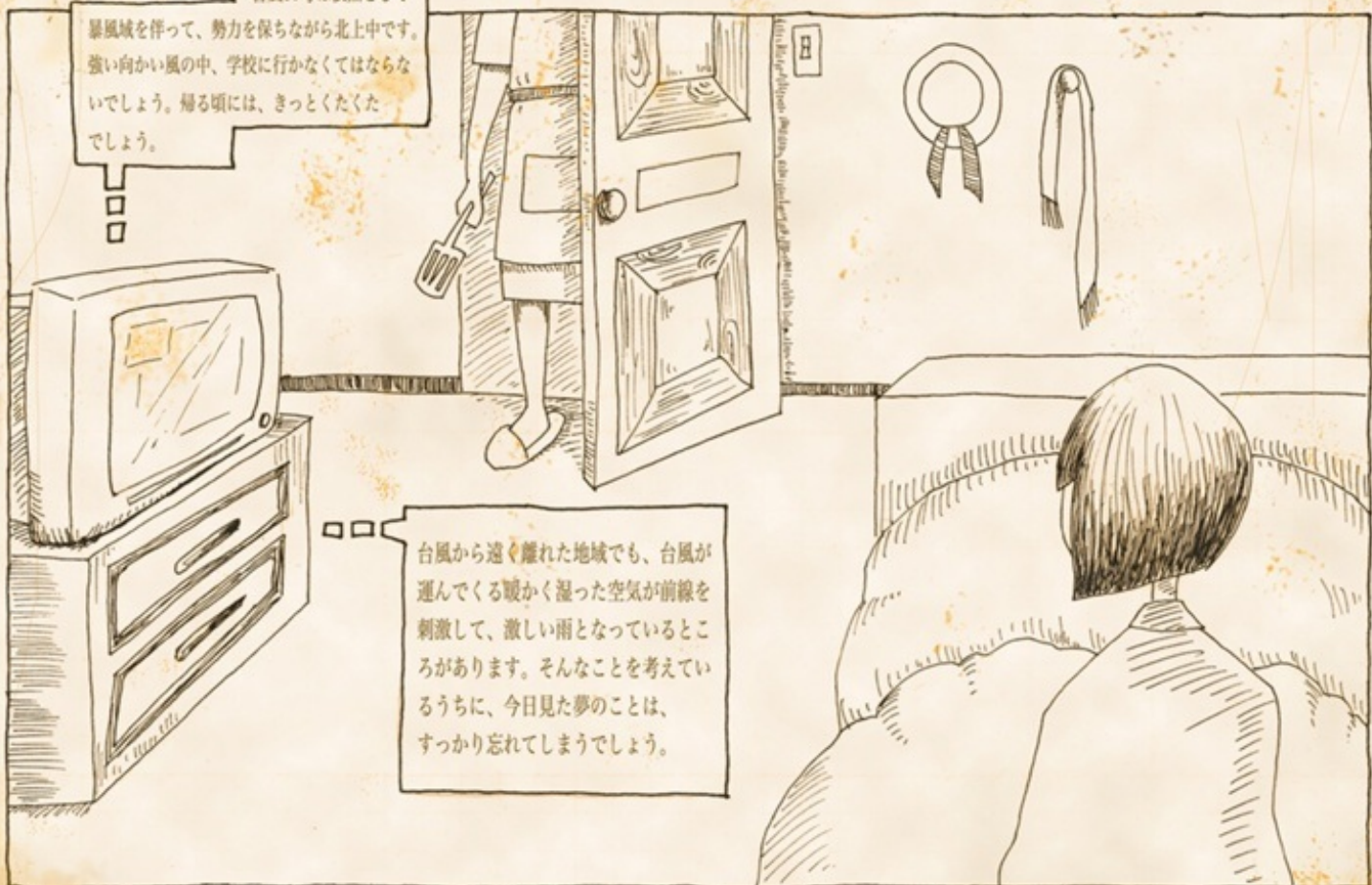






大型で非常に強い
台風17号は依然として

暴風域を伴って、勢力を保ちながら北上中です。
強い向かい風の中、学校に行かなくてはならない
でしょう。帰る頃には、きっとくたくた
でしょう。



台風から遠く離れた地域でも、台風が
運んでくる暖かく湿った空気が前線を
刺激して、激しい雨となっているところ
があります。そんなことを考えてい
るうちに、今日見た夢のことは、
すっかり忘れてしまうでしょう。

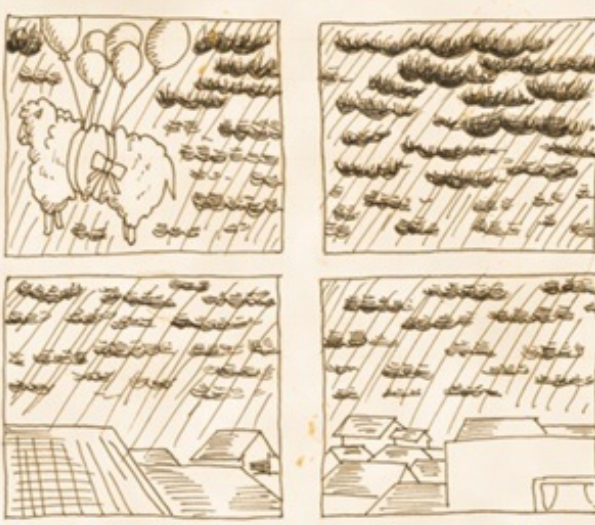
How many times
do I have to tell
you that awoijg
a:poe40t:!!!!!!!

WAAAWAAWAA!

SLAM



BLIP!!



....LIFE CONTINUES

タイフーンのメエ

<http://p.booklog.jp/book/33865>

Based on the story written by AIMI

Visualized by YUKI

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/33865>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/33865>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.